第２回 JR 加古川線（西脇市－谷川間）維持・利用促進ワーキングチーム会議要旨

日　時　令和７年２月１９日(水)10:30～11：59
場　所　社総合庁舎別館４階会議室
出席者　別添出席者名簿のとおり

内　容
＜開会挨拶＞
【片山委員（西脇市長）】
　去年の 12 月 27 日に谷川駅で開催した 100 周年記念イベントで、タレントの斎藤雪乃さんを 1 日駅長に迎え、ジャンケン大会や餅まきなどで、JR 西日本等のご尽力によりイベントを開催した。年末にもかかわらず、地元内外の方々に多く来ていただいて、加古川線の 100 歳の誕生日を祝っていただいた。斎藤雪乃さんからは、『末永く愛される加古川線として進んでいって欲しい』とのお言葉もあり、この 100 年を 1 つの通過点として、さらなる未来に向けて発車したい。
　いよいよ今年は大阪・関西万博が開催されるが、国内外の多くの方々が訪れる一大イベントである。私たち丹波市、西脇市も、地域の魅力を多くの方々に感じていただく絶好の機会と考えているので、万博に関連した施策も考えている。万博のメイン会場だけじゃなく、県内フィールドパビリオンをはじめとした地域の魅力を知っていただく取組をして、JR 加古川線利用促進により一層取り組んで参りたい。
　先日、新人高校駅伝があり『JR 西日本の運転手になりたい』という高校生と出会った。地元を愛してくれている生徒であり、地元からこういう声があがることは非常に大事なことだと感じた。
　令和 7 年度の取組案の具体的な内容は後ほど事務局より説明があるが、関係機関の皆様には引き続きご協力をお願いしたい。

＜資料説明＞
【事務局説明】
　資料１：令和 6 年度の主な取組結果等
　資料２：令和 7 年度の取組案一覧

【國弘委員（JR 西日本（株）兵庫支社長）】
　資料 3：加古川線利用促進策説明資料〔西日本旅客鉄道株式会社〕

＜意見交換　等＞

【國弘委員（JR 西日本（株）兵庫支社長）】
　2022 年からワーキングチーム会議を開催している。これは兵庫県の卓越した先見性だと思う。JR 西日本からは兵庫県内の 4 つの線区について課題提起したが、こういった関係者が集まって

議論する場が重ねられているということは全国的にも珍しいことで、こういった場を通じて、ＪＲの考え方を申し上げており、また、地域としてのいろいろな思いを我々にお伝えいただいている。特に加古川線ワーキングチームは、利用促進に向けて様々な取組の実施に向けて知恵を絞って汗をかいていただいていることに感謝する。

先ほど片山市長からご紹介があった高校生のエピソードだが、(その生徒は) よく加古川線を利用いただいている。実際私に話しかけてこられ『JR の運転士になりたい』と言われていた。このような加古川線を愛する人に支えられているということも事実であり、私たちはそういった人の思いに応えられるよう、日々安全運行に、これからもしっかり努めていきたい。

今日は社町駅から歩いて来た。駅周辺に店舗は無いが、昭和の雰囲気があってのどかな地域の佇まいである。加古川の雄大で１級河川にふさわしい景色を見ながら歩いてきた。やがて車がビュンビュン通る道路沿いの所を通って総合庁舎まで来た。改めて認識したが、やはり道路中心の社会になっていると思う。中国自動車道のインターチェンジすぐで、175 号という幹線が走っている。この交差点に総合庁舎もあるし、ロードサイドに「食事」や、「買い物」、「仕事」等生活をする場がある。この国のこのようなまちづくりが「昭和」、「平成」、「令和」と続いてきていると実感した。そんな中で加古川線についての議論も、改めて深めていければと思っている。

鉄道で来られた方がどれだけいるか。かつては鉄道のみだったが、今は車社会になり、相対的に鉄道が不便になった。車で行きたいところにいつでも行けるという便利さが当たり前になっていることが、ローカル線を取り巻く環境であると思う。

これまで、様々な加古川線の利用促進に取り組んでいただいたことに改めて感謝申し上げ、いよいよ万博を控えているので、臨時増便などをしっかり活かしながら利用促進に努めていきたい。

【池内委員（(株）ウィング神姫 代表取締役社長)】

神戸新聞の 3 回の特集記事は、同じ交通事業者としてグッと胸にくるものがあった。地域交通を支える事業者としての歴史や努力・苦労が紙面に表れ、その紙面を見て気が引き締まる思いであった。今後の取組については、沿線住民の方の乗車促進だけでは足りないため、今後は市外県外からの継続的な乗車に繋がる施策にも注力していく必要があるのではないか。また、バスでは少しずつ取り組んでいるが、物流という部分で、バスも西脇から三宮まで農作物を配送している。

今、郵便事業では『郵便局員が各地に設置しているポストまで集荷に行っても、(1 ヶ月間の) 投函量が少ないとかゼロという箇所もあるので困っている』という話を聞く。JR が乗車利用という目的だけではなくて、他事業の問題も一緒に考えることで地域全体の課題の解決につながるような事業ができないかと思う。来年度の取組の通勤定期の購入支援は良いと思う。ウィング神姫でも「山崎～三宮線」の補助事業があったときには乗車人員の数が増えた。JR とバスでは結果が異なるかもしれないが、事業実施後の利用状況をよく見ていただきたいと思う。

【長尾委員代理（神姫バス（株）内山 地域事業本部本部長補佐）】

地域事業推進本部はバス事業ではなく、地域をいかに頑張らせるかというセクションである。1年半ぐらい前から「ひょうごのいいもの」を発信するというウェブサイト（Localprime）を使って、産品販売や、体験ツアーをしている。『45人でバスに乗って観光に行くのはどうかな』という風潮もあるので、10人程度の少人数で体験するツアーを募集している。

万博に伴うフィールドパビリオンの体験コンテンツの磨き上げのモニターツアーを実施させていただいたチームがあり、そのチームが今年は、『「フィールドパビリオンに行くツアー」を現地集合の場合も含めて考えたい』と言っている。フィールドパビリオンに加古川線を絡めるとか、加古川線の1区間でも乗るようなことができないかなど。本当は神姫バスにも乗っていただきたいが、地元タクシー会社でも二次交通が難しいエリアであるので、我々のチームと一緒にツアーを組んで、フィールドパビリオンを知ってもらい、万博後もいかに継続していくかというところを考えている。フィールドパビリオンツアーで、このエリアを知ってもらって加古川線に乗るということに協力させていただきたい。

【藤本委員代理（西脇商工会議所・時政専務理事）】

私たちが見るところでは、通勤でご利用になる人は、かなり少ないというのが実状だ。通勤定期の補助については今後利用を呼びかけていきたい。

30年以上前の話だが、JRに貸切列車を運行していただいたことがあった。当時ディーゼル列車で急行型4両を西脇市駅に配車して、「ミステリー列車」と題して、参加者に行き先を知らせずに、谷川から線路を切り換えて天橋立まで行く旅行企画であった。当時子供だった人たちに聞くと、この貸切列車のことが非常に思い出に残っているとのことであった。

【篠倉委員代理（丹波市商工会・四方事務局長）】

商工会では、令和6年度に丹波県民局と連携しながら100周年記念イベントや、リレーマルシェの情報発信で参画した。國弘支社長から報告があった臨時増便というのは、利用促進の成果のあらわれのひとつじゃないかと感じる。まず安定的な利用者数の確保ということで日常利用を増やしていくことが大事。令和6年度事業の学校園等の社会活動助成は地域の子供たちに愛着を持っていただく、利用の裾野を広げる良い取組である。また定期開催のリレーマルシェについても、地元の愛着を深めるということで、地道ではあるが、今後の利用に繋がる良い取組と感じている。ふるさと納税については、ここに来てもらえるような利用の仕方とか、またクラウドファンディングなどで、日常の利用をしながら、観光の事業も取り入れていく必要があるのかな思う。商工会としては、引き続き、行政と連携しながら、地道に情報発信をしたい。

【大野委員（丹波市自治会長会会長）】

丹波市自治会長会が直接、この事業を行う立場ではないが、一人一人の住民がもう少し関心を持ってほしい。昨年度、久下自治振興会、比延地区自治協議会、黒田庄まちづくり協議会が連携を密にされ、JR加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会を設立されたこ

とは、非常にありがたく思う。丹波市自治会長会としても地域協議会と連携を密にして、住民に周知をさせていただきたい。

私は今、こども園の理事長をしているが、『園児たちに加古川線に乗せてあげられたら』と常に考えている。列車便数の問題、園児への安全に課題があるが、子供たちに列車の楽しさを知ってもらうのも将来的な利用促進の一つではないか。小さい時から親が JR に乗車していると子供たちも「JR」と言うようになる。今後とも一個人として JR 加古川線の存続のため、できることをやっていきたい。

【高瀬委員（西脇連合区長会会長）】

西脇市は 2004 年に水害に遭っている。西脇市和布町には、水害で今の橋梁に建て替えられた鉄橋があるが、供用開始してからまだ 15 年弱しか経過していない。『こんな新しい鉄橋を廃止するのか』というのが正直な気持ちである。

加古川は岸に桜が綺麗に植えられており、春に加古川線に乗ると、乗るだけで花見ができる素晴らしい景色がある。R7 の取組に貸切列車があったが、利用促進策をすれば何とか生きる道があるだろう。橋や駅など素敵なものがあるので、例えばレールバスを運行するとか、上下分離方式のような方法等で、なんとか維持する方法を考えていきたい。今ある施設は重要な施設である。赤字というのは大きな問題だが、それだけを捉えて、廃止というのは少し早い、もっと考えないといけない。赤字の路線を廃止すれば黒字になるという考え方もあるが、赤字の路線を切っていけば、やがて「本線」の乗客も減ってくる。JR だけの財産ではなく、市、県、国の財産であるので、そういう観点で考えて、何とか維持していける方法を考えることができたらな思う。

【村井オブザーバー（西脇高等学校長）】

本校では播州織の中吊り広告のデザインで協力をさせていただいた。デザインした生徒が 3 年生で卒業するので、これを来年度以降どう繋げていくかが課題。その他、生活情報科中心に播州織ファッションショーやいろいろな協賛事業で協力させていただいている。オブザーバーの当校と氷上高校だけでなく、他の高校も巻き込みながら何かイベントを企画できないかなと思っている。

高校で探究活動を実施している。高校生に加古川線の西脇市駅－谷川駅区間の状況を伝えるなど、そういう意識を持ってもらうのにどうしていくのかというのが、一番の課題であり、それができないと学校全体で盛り上げていくことが難しい状況である。高校生はすごいパワーを持っている。例えば、最近、本校でエレベータができた。ところが身体障害者の駐車場が従前の場所のままになっていた。ある生徒たちが校長室に来て、『エレベータが設置されたのに、なぜ身体障害者の駐車位置が変わらないのか。』と申し出た。実際に車椅子に乗ってここに駐車したら 30 秒早くなりますよとかね、そういう細かいところまで、調査して提案してくれた。学校もその提案を取り入れて駐車場の位置を変えた。思いもよらぬ提案が出てくると思うので、学校としていかに高校生にそういった意識を持たせてアイデアを出していくかというのが 1 つ大きな課

題だと思う。例えば西脇市駅－谷川駅間を使った旅の提案や、遠足は現行の車両数では全員は乗れないのでクラスごとに遠足を企画して行くとか。それから駅弁イベントで、通常よりも停車時間を長くした電車の窓から乗客が駅弁を買ったり、列車の中で駅弁を食べるようなイベントも面白いのではないかと言った生徒もいた。

通学定期券補助に関して、潜在的にどれくらい利用する学生がいるかだが、日本へそ公園駅より南から通う生徒はあまり利用しないと思われる。黒田庄町地域の生徒が利用する可能性が高い。全校で 40 名くらいが在籍しているが、この生徒が通学に列車を使うようになれば、かなり利用促進できるのではないか。それで課題になってくるのが、学校の始業時間である。西脇市駅で列車を降りてそこから自転車を使ってギリギリ始業時刻に間に合うかどうかのタイミングである。駅から歩いて通学する生徒は始業時刻に間に合わない。列車のダイヤを少し早くするのか、学校が始業時刻を少し遅くするのか、そういったところが課題である。

校長会などの会議が尼崎市内で開催されることがあるが、谷川駅回りでも尼崎駅に行くことができる。時間でいうと 10 分くらい加古川駅回りよりも長くかかるが、丹波路快速はほぼ座れるというメリットもある。そのようなアピールも必要ではないか。2/9 の「マルトリエ」のイベントの折に hcc(ヘソシティクラブ)の方とそんな話をした。

【成田委員（北播磨県民局長）】

これまで、地元の方々、JR 西日本、行政などがいろいろと取組をして、皆さんの意識が変わってきたと思う。神戸新聞の特集記事を見ると、先人達の熱い思いが伝わってくる。イベントをしたことによって、波及効果が生まれているのではないか。今年は大阪・関西万博があり、地元のフィールドパビリオンが、万博本番にどのようなおもてなしができるかということに取り組んできた。そういった意味で、本番もさらに素晴らしいことができると思っている。昨年イベントで実施した駅舎スタンプが想像以上に人気があった。私たちが想像していないものに人気が出てくることがあるので、北播磨の観光のホームページに、JR 加古川線を使ったモデルコースとか、地元のグルメコースとかを掲載するなど工夫していきたい。

また、県職員にＰＲするようなことも検討している。部長級の職員等への説明や、山田錦の農業遺産認定もあったので、お酒を絡めた鉄道の利用促進を働きかけたい。乗ってみる経験をしていただくことによって、良かったなという印象を持っていただきたい。これまでは移動手段の選択肢は車のみという方が多いようだが、1 度 JR に乗ることによって、移動手段の選択肢に JR 加古川線があがるようになればと思っている。私どもとしても精一杯頑張っていきたい。

【糟谷委員（丹波県民局長）】

今年度丹波県民局では、リレーマルシェ第４弾として、昨年の 8 月 22 日に「久下村夜市」を開催した。キッチンカーや屋台などでの飲食だけではなく、子供たちが楽しめる大型迷路の企画を実施し、昨年度を上回る約 900 名の方にご来場いただいた。特に加古川線利用者は約 270 名ということで、多くの方に利用していただいた。また、この３月には第 6 弾として久下村夜

市の開催に向け、現在県民局のユースチームが、久下自治振興会と一緒に準備に取り組んでいる。若い職員たちがアイデアを出しながら、地域住民の皆様とともに、加古川線の利用促進に取り組んでいることは意義のあることである。来年度は、新たに設立するJR加古川線利用促進協議会（仮称）での取組によって、大阪・関西万博という誘客機会に合わせて、さらなる利用促進に取り組んでいきたい。来年度も、久下村駅等でのリレーマルシェを継続し、地域のにぎわいをつくり出すとともに、環境学習列車を運行することによって、丹波地域と播磨地域をつなげて、加古川線のさらなる利用促進につなげていきたい。実際の運行方法等については、ＪＲ西日本と協議させていただきたいのでよろしくお願いしたい。現状のダイヤでは久下村夜市のＪＲ利用者を今以上に増やすことも難しいので相談させていただきたい。また丹波県民局が事務局である丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会では、新たな取組として、丹波竜化石工房ちーたんの館のリニューアルオープンに合わせて、久下村駅などから、ちーたんの館や恐竜化石発見地等の恐竜スポットを結ぶ、グリーンスローモビリティの定期運航も考えている。駅からの二次交通を整備し、恐竜スポットの周遊、誘客を図ることよって、JR加古川線のさらなる利用促進の方に繋げたい。

【片山委員（西脇市長）】

去年12月5日にJR西日本のグループ会社のイベントを拝見した。JR西日本のグループ会社はすごく幅広い取組をされているので、何かこちらからグループ会社に提案できることはないかと考えている。来年度もまた参加させていただきたい。

今、西脇市では、廃棄自転車の再利用も含めた自転車無償貸出事業を行っている。また、来年度は、通学通勤定期券の購入費の一部を半額ではなく全額補助することにしている。さらに、黒田庄、比延、久下の３地区でレンタサイクル事業を実施している。令和５年度には、JR西日本の協力を得て「サイクルトレイン」の実証実験を実施した。そこで、駅まで「自転車」、駅から「自転車」、たまには「サイクルトレイン」というのはどうかと考えた。また、西脇市内に電動キックボードを扱う会社があって、この電動キックボードを列車に乗せられないかとも考えている。倒木や倒竹対策についての条例制定なども丹波市さんと考えているが、進めていくうちにわかったこともあり条例設置はハードルも高い。それに代わる効果的な取組も考えていきたい。

【林委員（丹波市長）】

今日はいろいろな意見を、新しいアイデアをいただいた。今、西脇市長から話があった条例について、加古川線、福知山線に乗車して倒木の様子も見たが、なかなか条例制定はハードルが高い、難しいなと思っている。まずJRとも相談しないといけないが、協定や覚書のような方法も検討している。

それから、加古川線の片道２便、計４便増便は大変ありがたいと思っている。当初から私は、『加古川線はもっと使いやすくなれば人が乗る』と言ってきた。ただ、増便したからといってすぐ乗車数が増えるものではない。増えていくには2年3年はかかる。例えば、私どものバス

増便では、2年間は乗客が減少していた。2～3年後、やっと乗客が伸びたということもある。

【國弘委員（JR西日本（株）兵庫支社長）】

様々な利用促進に関するアイデアをいただいた。皆さまからいただいたご意見を反映できるものは是非反映して、より実効性のある利用促進を実施し 、地域の認知度を高めていきたいと思う。また我々が連携してできるものは是非やっていきたいと思う。

高瀬委員のお話の中で、誤解があると感じたのは、西脇市－谷川間が赤字だから、云々と言っているわけではない。きちっと試算していないが、おそらく加古川線（全線）は赤字だろう。鉄道というのはご利用が少なくても、線路を敷設して、踏切、駅舎、車両、橋梁等、いろんな設備があって、その設備のメンテナンス、設備を維持するための社員が見えないところで多数仕事をしているなど運営経費がかかっている。赤字云々というよりは、そういった多くの設備で鉄道を運営しているにもかかわらず、大量輸送機関である鉄道に見合ったご利用が無いという点についての問題提起である。私たちは赤字であっても、一定の利用があるところは、しっかり歯を食いしばりながら安全で運行していきたいと思っている。

インフラは、かつては高度成長期どんどん整備してきたが、今そのインフラが老朽化して、いかに維持していくか、安全を保っていくという事が、非常に重要な課題になっている。鉄道も利用の少ないところの安全を守るために維持しているが、やがてその労働力もどんどん減っていく。果たしてこれを将来私たちの子供・孫世代にまで残していくのか、愛着あるから残したいという気持もわかるが、インフラとしての鉄道が利用の少ない所を本当に残せるのか、私達が本当に真剣に悩んで考えていることも理解いただきたい。だからこの利用促進をしつつ、将来の加古川線沿線の公共交通をどうしていくのかという非常に重要な問題について、このメンバーでそういった議論を是非早く開始していきたい。

＜閉会あいさつ＞

【林委員（丹波市長）】

ご参集の皆様には熱心にご議論いただきありがとうございました。皆さんと、本当にこの加古川線をどうしていくのかということを真剣に考えていきたい。本日の会議では令和6年度の取組とともに、加古川線の更なる利用促進に向けて、貴重なご意見、提案をいただいた。4月から10月の半年間、大阪・関西万博が開催される。このJR加古川線の西脇市駅～谷川駅間について、一層重要な時期である。本日いただいたご意見を大切にして、引き続き、地域、行政、交通事業者等が一体となって、加古川線の魅力を発信しながら利用促進に取り組んでいきたいと考えている。今後のご協力を改めてお願い申し上げ、閉会のごあいさつとする。

以　上